

【社会文化学科カリキュラム・ポリシー】

1. 1年次～2年次では、主として全学共通教育を履修します。全学共通教育は、基礎科目として「外国語」「健康・スポーツ、文化・芸術」「情報科学」の科目群、教養育成科目として「人文・社会分野」「自然分野」「学際分野」の科目群があります。全学共通教育は教育目標として「知の探究者として育つ」「市民社会の形成者として育つ」「地域社会の創造者として育つ」「国際社会の貢献者として育つ」「自己の開拓者として育つ」の5つを掲げており、これらの科目を修得することで、専門教育の基礎となる力を養うとともに、教養ある社会人として必要な、幅広い知識、思考力、語学力、コミュニケーション能力を涵養します。
2. 初年次教育科目として、1年次には演習系・実習系科目を設けています。これは、専門分野に関わる文章を読み理解する力、論理的なものの考え方、情報収集、文章作成技法、討論やプレゼンテーションなど、本学科での学習に必要な基礎的な力を養うためです。
3. 1年次後期より、現代社会コースまたは歴史と考古コースに所属し学びを深めていきます。現代社会コースでは、社会学・地理学・文化人類学を学ぶことができます。歴史と考古コースでは、歴史学・考古学を学ぶことができます。
4. 専門教育科目としては、講義系科目と、少人数の演習系・実習系科目を設け、各専門分野に即して総合的な力を養うことができるようにしています。講義系科目では、主として人文・社会諸科学の理論及び方法に関する基礎的な知識を習得します。年次の進行とともに、より深くかつ先端的な知識が学べるように科目を設けています。演習系・実習系科目では、専門知識を習得するとともに、論理的な思考力、自らの考えを文章や口頭で表現できる能力、自らが必要とする情報を収集・分析する能力、他者と協力して課題に取り組む能力などを身につけられるようにしています。年次の進行とともに、より深い知識、より高い能力を身につけられるように科目を設けています。
5. 地域社会への関心を培うため、地域社会に関する講義系科目や、フィールドワークをとり入れた演習系・実習系科目を設けています。
6. 学生がそれぞれの関心に即して学ぶことができるよう、科目履修の自由選択度を十分確保しています。また、1年次より指導教員制を徹底し、かつ学生の関心の変化・深化に即して指導教員を適宜交替していくことにより、大学生活のすべての時期にわたって、それぞれの学生に必要な指導・支援が行えるようにしています。

7. 各自が主体的に研究課題を発見し、究明に取り組んでいく特別研究（卒業論文）の作成を、大学での学びの集大成として重視し、必修としています。

8. 法文学部には「学修経験値システム」という独自の評価システムがあります。学部すべての専門科目には、「思考力」「情報力」「表現力」「適用力」「異文化力」「地域力」「協働力」の7つの獲得能力が数値化されており、これらの力を身につけるための客観的数値として参考にすることができます。「学修経験値システム」により、自らの修得能力の分析を行うと同時に、以後の履修計画の参考にすることも可能となっています。

9. 法文学部には、卒業後の進路を見据えた独自のキャリア支援プログラム「キャリアゲート制」があります。すべての学生は3年次進級時に「公務員ゲート」「企業ゲート」「教職ゲート」「専門職ゲート」「司法ゲート」の5つの中から自らの進路にあったゲートを選択します。進路に即した就職情報の提供などのキャリア活動支援がなされるだけでなく、ミニ授業である「講座」が多数開講されます。また、2年次前期のプレゲート科目として「キャリアプランニング」が必修科目として開講されます。これらにより早い段階から自らの進路について考え、準備にとりかかることが可能となっています。